

原発は本当に安いのか

東日本大震災より8カ月、復興の予算はついたもののその後の政権闘争と政治空白により補正予算も未定で復興の萌しが見えてきません。ことに福島第一原発のメルトダウンによる放射線汚染と除染対策、農作物の風評被害は予想を超えた地震と津波によりもたらされた災害といわれていますが、本当でしょうか。

原発建設にあたって核の持つ危険の想定が甘かったのではないかと、将来へ増え続けていく核廃棄物処理を将来への技術革新に賭けた見込み違い、予測を遥かに上まわった原発増設と国民の核エネルギー依存、地方自治体の原発による財政維持体質が浮き彫りになっています。身近なところでは九電の玄海原発とプルサーマルの稼働はどうなるのでしょうか、早くも今冬は節電5%が求められています。佐賀県知事によるやらせ討論会、企業トップの責任逃れとも思える居直り、企業内部のコンプライアンスと社会的責任の希薄さを皆さんいかが思われますか。

広島長崎の被爆に始まって南太平洋における核爆発実験による第5福竜丸被曝事件、諸外国を含めて原発開発に関しても東海原発事故などこれまでに数え切れないほどの事故が発生してきたといわれています。戦後続いた東西冷戦構造による核の傘に安住してきた日本国民の核に対する脱アレルギーと1970年に始まったオイルショックによるエネルギー確保へのあせり、バブル経済に浮かれている間に日本は50数機もの原発を稼働させていました。

日本の核エネルギー開発戦略の経過をNHKが午前1時半から連続して深夜放送していたのをご存知ですか。一体どれだけの人が視聴されたのでしょうか。放送の内容は実に詳細で真摯なものでしたが、国営放送ともいえるNHKですら何か政治の手が延びているように感じましたが、皆さんはいかがでしょう。

東西冷戦崩壊の前年、1988年9月の別冊宝島81号で刊行された“決定版 原発大論争”の改訂文庫本を入手しました。1999年に第一刷が、今年8月13日に第2冊目が発行されています。原発の安全性と大地震による被災、放射能について、原発の持つ経済性（本当に原発は安いのか）、加えて原発から排出される放射線物質の処理能力、しかも将来の技術革新を期待して建設された青森県六ヶ所村の核再処理場は既にパンク状態といわれています。この文庫本の中では既に23年前に、今起こっていることがそのままに語られています。一読をおすすめします。

福島原発事故発生時の作業員の被曝状況を先日広島大学救急医療部教授の谷川先生は当時の生々しい300枚の写真とともに今後の対策を込めて公開されていました（先生は黒崎クリニック時代当院に当直に来られていました）。その後の福島原発事故処理に際しての労働災害救護班として産業医科大学は医師へ派遣の増員を行っています。

自分達にとって遠い世界のできごとと、すでに風化されているとの思いがあるかも知れませんが、恐らく現地の状況は殆ど変わっていないことが推察されます。一度被災地を訪れてみてはいかがでしょうか。あなたの人生に何かが起こるかも知れません。

平成23年10月31日

理事長 市丸 喜一郎

参考書：「決定版 原発大論争」
（電力会社 vs 反原発派）
別冊宝島編集部編
（はまゆう倶楽部図書）